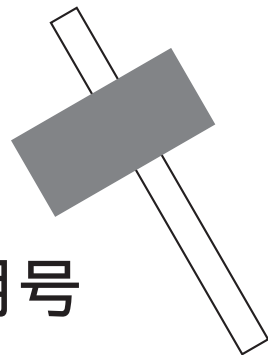


タンネウシ 4

月号



その後の 博物館リフォームしましょ！

展示リフォーム実施中！！

平成14年1月18日に説明会をして以来、ほぼ2ヵ月が経ちました。実施状況はと言えば、生物関係ではイルカやクジラなど海獣模型が着々と作られ、植物標本も資料が蓄積しつつあります。

考古や民族・民俗関係では、竪穴住居の模型作りやアイヌ文化期の発掘資料・民族資料選びが順調に進んでいます。

この他、開館以来24年間変化の無かった1階壁面の一部が金網（メッシュ）に変わります。この壁面を利用し展示する資料は収蔵庫に収納していた考古・民族資料や民俗資料です。この他、写真パネルも取り付けられる予定で、新しい展示がこの4月以降にお披露目されます。

新しく進化し続ける博物館の様子は今後も随時紹介していきますのでご期待ください。それから、展示リフォームは今後も進めていきますので、ご協力頂けるボランティアの方々の参加をお待ちしております。

保護のワシ今年も産卵！

博物館野外観察園で保護飼育されているオオワシ・オジロワシペアが、3月に入り相次いで産卵しました。オオワシは2年連続、オジロワシは3年連続です。産卵したペアはいずれも事故で翼を骨折するなど野外復帰不可能な個体です。

残念ながら、過去はいずれも孵化に失敗したり、孵化後雛が死亡したりと、無事に育ってはいません。今回オジロワシについては、両親にはかわいそうですが、卵を釧路市動物園に移送し、同園で飼育されているハクトウワシを代理親にして子育てさせる予定です。環境省は野生個体が絶滅の危機に陥った場合に備え、国内の動物園で飼育されている希少鳥類の繁殖増殖技術を確立するために「希少鳥類保護増殖事業」を進めています。しかし現在オジロワシについては国内動物園で飼育されている限られた数の中で長年繁殖が行われてきたため、繁殖力低下など近親交配の懸念が出てきました。そのため、両親とも野生個体である今回の卵をなんとしても無事育て上げ、将来繁殖に参加させ、新たな血統を導入したということで、両親はかわいそうですが、あえて協力することとなりました。

それにしても、体が不自由なワシが2組も、とても整った施設ともいえない場所で毎年産卵するというのは珍しいことです。どうかみなさんやさしく見守ってやってください。

(増田)

IT講習会のお知らせ(4月開催分)

博物館での講座(応用編)が始まります。

詳しくは「おじろ通信」をご覧ください。

●協力会事務局から

まもなく年度が変わります。

住所変更などありましたらお知らせ下さい。